



①備中町 平川



平川のまちの入口には、「平川後継者」手づくりの案内看板が設置されています



中岸会長にピオーネ栽培の指導を受ける関屋さん夫婦



2枚の勲章とともに、平川村定住推進協議会の皆さん。笑顔がいきいきしています

今月号から「地域のページ」として、市内各地域にスポットを当てて、その地域の特徴や様子をお伝えします。第1回は、備中町平川地区です。この平川地区は、とにかく元気がいいことで有名。たくさんの方の組織が活発な地域活動を行っていますが、その活動のほんの一部をご紹介します。

新規就農者を受け入れて産地を守ろう

平川村定住推進協議会

市の特産品であるトマトとピオーネ。農業の盛んな平川地区では、この2品目について、市内でも有数の産地になっています。

しかし、近年は過疎高齢化で生産量は伸び悩み、後継者不足が心配されていました。

「このままではいけん」と地元住民が平成19年に岡山県と取り組んだ園地アンケートでは、10年後に生産量が半分近くになるという結果が出ました。

この時、一緒にアンケートに取り組んだメンバーで、平成20年度に設立したのが平川村定住

推進協議会です。農家、認定農業者、農業委員、コミュニティ、JAびほく、農業普及指導センターなど、地域の主要な人と関係機関で構成されたこの協議会。「トマトかピオーネの栽培をしながら田舎で暮らしてみたい」という夫婦を全国から募集しました。

参加した夫婦は、1〜2年間、週末などを利用して農作業体験をします。また、祭りなど地域の行事にも参加し住民との交流も図ります。その間に、「平川でやっていけるかどうか」をお互いが判断し、地域全体で支援し

ていくという取り組みです。

3年間で5組の夫婦がこの取り組みに参加。1組がすでに移住し、4月からは2組目が平川での生活を開始する予定です。

近隣では他に例を見ないこの取り組み。県内外で大いに注目され、昨年5月に岡山県の「夢づくり推進大賞」、10月には「21世紀おかやま農林水産業活性化優良団体」と、県内の主要な賞に輝きました。

ピオーネ農家で、この協議会の会長・中岸廣之さん(75)は、「参加した夫婦を、地域みんなで楽しみながら支え合っています。産地はそれで守られるし、地域も活性化される。言うことはありません」と話し、トマト農家で同協議会副会長の江草健治さん(69)も、「受賞は光栄。これからも地域全体で頑張っていきたい」と



指導農家の講評を真剣に聴く、研修中の伊藤さん(手前背中)

意気込みます。

3月28日には、1年間を総括する報告会があり、すでに定住を始めている市川高志さん千津子さん夫妻、今年から定住する関屋清司さん由美子さん夫妻、研修開始、間もないのに定住を始めた伊藤博和さんから研修成果の発表がありました。

平川に馴染み始めた新しい仲間たちの発表を、協議会の皆さんはおおらかな笑顔で見守っていました。

地域活動の拠点組織 平川コミュニティ協議会

平川コミュニティ協議会は、地域のさまざまな活動の拠点として、地域になくはならない組織です。

子ども神楽などの催しものや金魚すくい、的当てといった夜店がズラリと並ぶ「夏の土曜夜市」や、みんなが工夫を凝らした演劇などを披露する「ふれあい文化祭」は、同協議会の主催。1年に1度開催されるこのお祭



ほんとみんな元気じゃあー

地域みんなで支え合って

平川にはほかにも紹介したい組織がたくさんあります。

「平川ふれあいの里づくり推進委員会」は、交通手段のない高齢者の移送サービスや給食サービスなどを担う組織で、地域みんなで支え合う平川を象徴しています。

平川の「渡り拍子」は市内外でも大変有名ですが、「平川渡り拍子保存会」が伝承活動に励んでいます。

「平川の歴史を語る会」は、郷土の歴史を後世に伝えていきます。

主に40歳代までの住民で構成されている「平川後継者」は、あらゆる地域行事に率先して参加し、準備から片付けまで何でもこなします。

天空の郷 平川の人たちは、地域みんなが協力し支え合って、今日も元気です。